

2024年2月26日

『非同期型遠隔体育授業のモデルの提案』

所属：港区立白金小学校

氏名：花井 拓也（はない たくや）

略歴（やっていること）：港区立白金小学校主幹教諭。港区教育研究会小学校体育部や令和3年度東京都教育研究員（小学校体育）などで研究を推進。体育ICT研究会に所属し、全国の先生方と体育×ICTについての実践を重ねている。（～300文字以内）

サマリ：非同期型遠隔体育授業の実践を通して、協働的な学びや創造性教育の実現を目指し取り組んだ。株式会社 Mikulak の「ClassCloud」アプリを活用することで、他地域の小学校と協働的な学びを実現することがより可能となった。実践は表現運動で、港区立白金小学校、天川村立天川小中学校、新潟市立沼垂小学校の3校で実施した。他地域の運動を見ることで表現が広がり、互いに良さを伝え合うことで新たな気づきがあった。他領域や他教科での実践や同期型遠隔体育授業と並行する実践など、今後の可能性を強く感じた。

キーワード：「地域性の実感」「学校規模の差の解消」「体育の見方・考え方」（3～5つ）

目次（見出し一覧）：

- 1 実践の背景
- 2 実践の方法
- 3 実践の成果
- 4 今後の展望

非同期型遠隔体育授業のモデルの提案

港区立白金小学校

花井 拓也（はない たくや）

1.実践の背景

今回「非同期型遠隔体育授業のモデルの提案」ということで実践をさせていただいた背景には、1人1台端末が学校教育の現場に入り、深い学びの可能性を模索しながら日々の実践を繰り返していたことがあります。全国には様々な実践・研究を進めている先生方がいらっしゃることを知り、お話を伺いながらたくさんの繋がりができました。そこで、株式会社 Mikulak の原田真さんと出会いました。原田さんは、学習の跡を簡単に記録できる「ClassCloud」というアプリを開発され、それは単に個人の記録に優れているだけでなく、個人の記録を他児童と共有することもできるものでした。他児童というのは、クラスの友達や同じ学校の他クラスの友達だけではありません。「ClassCloud」アプリを活用することで日本中、いや世界中の友達とも簡単につながることもできるのです。自分1人では考えつかないことも、友達と協働的に学ぶことで学習に広がりや深まりが生まれることは容易に想像できるかと思います。さらに、新たな気付きから創造性を育むことにも関わるだろうと考え、今回の実践を進めました。

2.実践の方法

非同期型遠隔体育授業の実践に当たり、港区立白金小学校（6年生112名）、天川村立天川小中学校（5・6年生11名）、新潟市立沼垂小学校（5年生60名）の3校で実施しました。運動領域は表現運動です。それぞれの学校で取り組んだ表現運動の様子を撮影し、毎時間動画を投稿します。「ClassCloud」アプリの活用により、下図のように、簡単に投稿することができ、他児童の投稿を簡単に見ることができます。



ここで「ClassCloud」アプリの機能について紹介します。まず、運動の様子をスロー再生したり、反転再生したり、重ねて比較したりするなど、体育の運動を見るための機能が充実しています。

次に、自分の運動について、コメントする機能についてです。学習のめあてや振り返り、運動の解説など教師が指定したワークシートに記入し、動画とともに履歴を残すことができます。

「ClassCloud」アプリ デジタルワークシート機能

教師が作ったワークシートに入力やファイル添付をします。

【はじめ】について 工夫や解説
クマが餌を食べている。
猟師が害獣を探している。
天気→晴れ
川→ゆっくり

【なか】について 工夫や解説
クマが猟師に襲い掛かる。
猟師はびっくりして逃げる。
猟師がクマを撃つ。
クマが倒れる。
天気→雨
川→激しい

【おわり】について 工夫や解説
猟師がクマをつれていく。
クマが少し動く。
猟師とどめをさす。
天気→雨
川→激しい

さらに、友達運動に対してコメントを入れる機能があります。今回3校で実践しましたが、他校児童へのコメントも容易に行うことができました。

「ClassCloud」アプリ コメント機能

投稿された動画に対して、コメントをすることができます。

東京A児童
美味しかった時もっと跳ね返った方が面白いとか美味しく見るとおもいます！

新潟A児童
アドバイスありがとうございます😊癒しいです！

東京B児童
発想力がすごいですね。私にはその考えはありませんでした。表現が大きいので内容が理解しやすく校豆が食べたくまりました。、

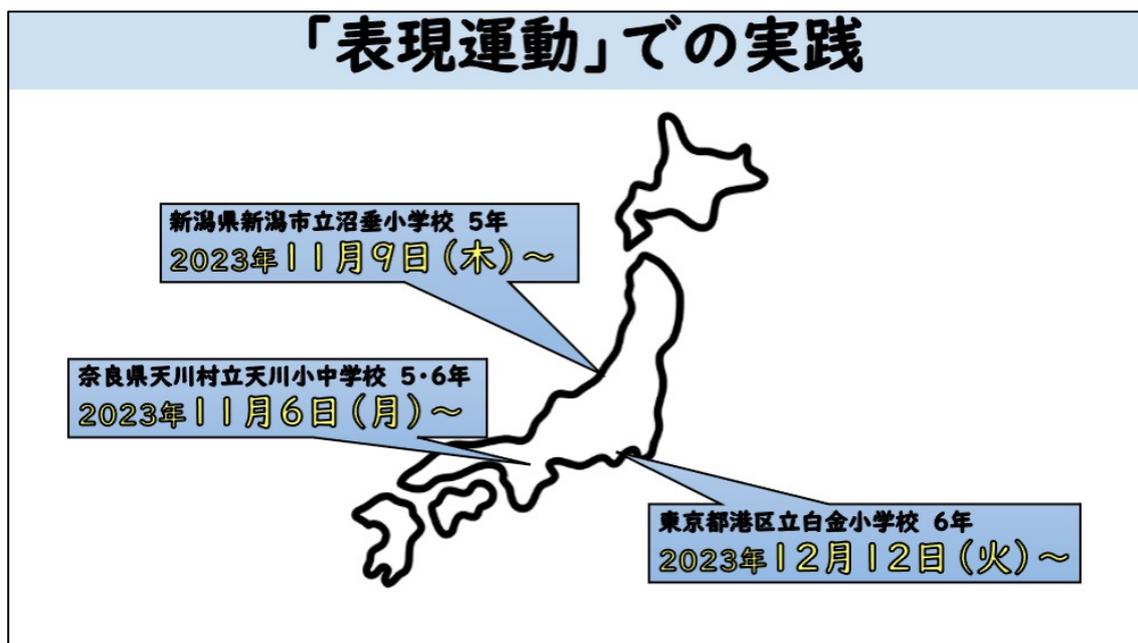
新潟B児童
ありがとうございます！
そう言ってくれてうれしいです！

奈良A児童
罵いて逃げるところがいいですね！

新潟C児童
大きな動けるともわかりやすかったです！わたし的にはうまくいったと思いました！

奈良B児童
ありがとうございます。

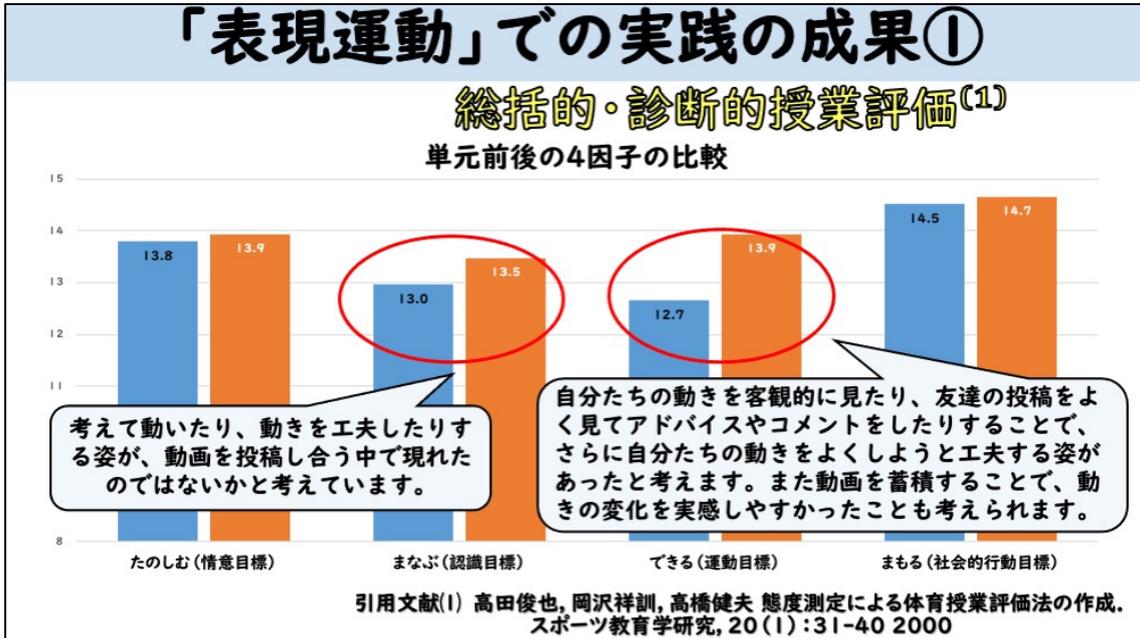
このように「ClassCloud」アプリを活用して実践しました。非同期での取組でしたので、実施時期が異なる場合も、先に実施した学校の投稿に対してコメントを入れることができます。同期型遠隔体育授業には、リアルタイムで協働的な学びをすることで得られるダイナミックさや臨場感があると思いますが、学校間での調整が難しく、実践しにくい点が課題となります。しかし、今回の非同期型遠隔体育授業は、時期を問わずに日本中、世界中の友達と協働的に学ぶことを可能にします。



3.実践の成果

実践の成果として、以下の5つを挙げさせていただきます。

① 総括的・診断的評価より



今回の取組の前後にアンケートを実施しました。「まなぶ因子」と「できる因子」の変化から、動画を投稿して自分の運動や友達の運動をたくさん見ることができたことで、動きをより工夫したり、動きの変化を実感したりすることに繋がったと考えました。

② 地域性を実感できる！



東京・白金小学校の児童の表現運動に「クマ」や「猟師」が出てくることはありませんでした。奈良・天川小中学校の児童が「クマ」や「猟師」を表現したのは彼らの親に実際に猟師がいたり、クマが出ることが実際の生活にあったりするからだと言われ、大変驚いて

いたのが印象的です。新潟・沼垂小学校の児童が表現する「佐渡金山」や「佐渡おけさ」も同様に、各校の児童は他地域の特色を十分に味わっていました。自分の経験にないものを見たり聞いたりすることは、その児童の創造性を育むことに繋がると 생각합니다。育まれた創造性によりさらに深みを増した表現が、子供たちの学びを深めたと考えています。

③ 学校規模の差の解消



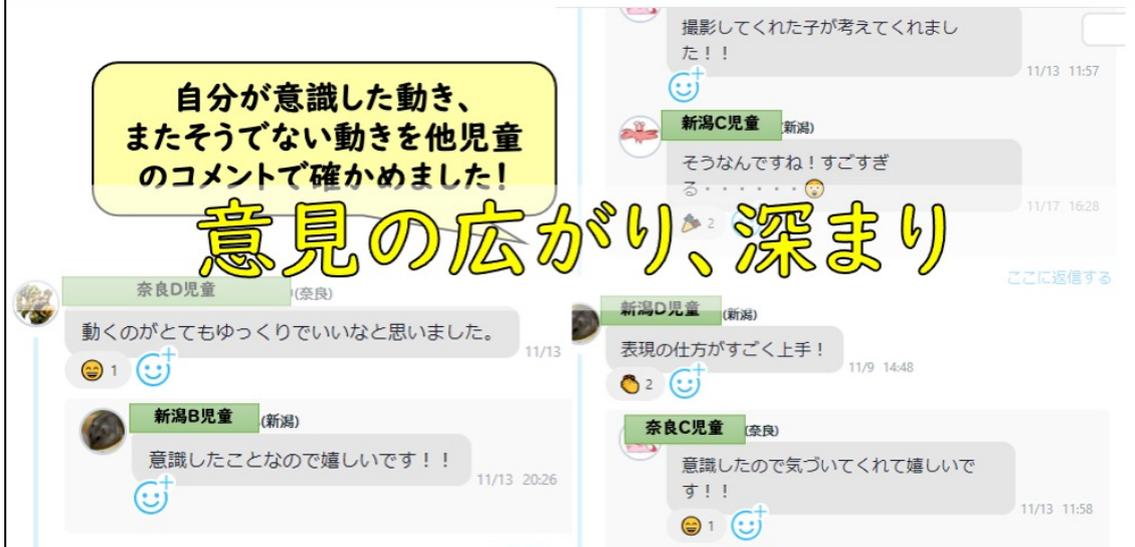
今回の実践校は、港区立白金小学校（6年生 112名）、天川村立天川小中学校（5・6年生 11名）、新潟市立沼垂小学校（5年生 60名）の3校でした。3校それぞれ学校規模が違います。天川小中学校は、5年生と6年生合わせて11名でした。普段の学習では、11名の友達と運動の様子を伝え合って活動しています。今回の実践では、100名を超える普段の授業ではもらえない数のコメントをもらうことができ、大変喜んでいと聞きました。白金小学校の児童にしてみれば、児童数の違いに驚いたり、また体育館や校舎の様子から学校環境の違いに興味をもったりして、東京では味わえない学習になったことに違いありません。児童数の多い少ないで、どちらが良いということではなく、その実態に応じた特色ある教育活動を進めるようこれまでの教育現場では行ってきたと思います。しかし、今回のようなテクノロジーを活用した実践により、学校規模による“差”が解消されれば、ますます活動の可能性が広がるのではないかと考えました。

④ 意見の広がり、深まり

「表現運動」での実践の成果④

自分が意識した動き、
またそうでない動きを他児童
のコメントで確かめました！

意見の広がり、深まり



前述のことから、様々な地域を実感したり、普段とは違う友達から意見をもらったりすることで、新たな気づきがあったと児童のコメントからうかがえます。自分で考えたことをもとに、クラスの友達と表現し、さらに他地域の友達に認めてもらう活動を繰り返すことで、さらに考えを深めていました。

⑤ 体育の見方・考え方「する・みる・支える・知る」を働かせる！！

「表現運動」での実践の成果⑤

体育の見方・考え方
『する・みる・支える・知る』

働かせる！

多様な関わり

学習指導要領解説体育編には、「体育の見方・考え方を働かせて、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育むことが大切」とあります。今回の実践において、従来の体育科の学習の何倍も自分の運動や他児童

の運動を見たことでしょう。そして、何人もの友達によさを伝えたり、助言したりすることができました。これは、体育科の見方・考え方の「する・みる・支える・知る」の「みる」や「支える」であり、十分に働かせながら多様なかかわりを実現することができました。

4.今後の展望

今回の実践を通して様々な可能性を感じています。以下の2点についてまとめます。

① 「非同期型遠隔体育授業」と「同期型遠隔体育授業」のコラボレーション！

今回は非同期型遠隔体育授業でしたが、リアルタイムに同時に繋がり、同期型遠隔体育授業と組み合わせることでさらに深い学びの実現が可能になるのではないかと考えます。例えば、今回のような表現運動であれば、「同期型遠隔体育授業」で、同時に他校とやり取りをしながら運動し、少人数グループで一緒に創り上げるような活動を計画します。グループで創り上げたものを他グループと見合うような活動を単元の終末に行う際、「非同期型遠隔体育授業」にシフトし、「ClassCloud」アプリを活用しながらさらに学びを深められるような授業を実践したいです。

② 他教科での実践

今回は体育科での実践をお伝えしましたが、様々な教科等での取組が考えられると思います。令和6年1月1日、能登半島地震が発生しました。ちょうど、今回の実践の途中だったため、3学期の始業式の時に真っ先に話していたのは「新潟の沼垂小の子たちは大丈夫かな？」ということでした。例えば、社会科の「震災復興と政治」の単元と関連させ、現在の様子を共有しながら他地域ができることを考え、発信するような活動が考えられます。

様々な可能性を感じることができ、今後も協働的な学びの中で創造性を育む活動を計画し、ますます推進していきたいと思います。今回、このような実践、研究の機会をいただきありがとうございました。

1. 実践の背景と創造性の捉え方:

- なぜ企業や NPO との協働を取り入れることにしたのか、その動機や背景および、協働的な学びの中で、どのような創造性が生まれると考えているのか、創造性をどう捉えているかを記載してください。

2. 実践の目的:

- 実践を通じて何を達成しようとしたのか、教師と児童生徒の視点での目的を記載してください。

3. 実践の内容:

- 具体的にどのような活動やプログラムを行ったのか、「未来に触れる段階」「未来を考える段階」「未来のために行動する段階」ごとの詳細な記述してください。

4. 実践の方法:

- 実践を行うためにどのような手法や教材を使用したのか、その詳細記述ください。

5. 実践の結果:

- 実践を通じて得られた結果や成果、可能であれば児童生徒の反応や変化も含めて具体的に記述してください。

6. 実践の反省点（特に、協働的な学び、及び創造性の観点から）:

- 実践を通じて何がうまくいったのか、何が改善の余地があるのかを反省し、その内容を記述してください。特に、職場環境や児童の実態、協働を実践した教員の立場を踏まえてお書きください。

7. 今後の展望:

- 今後、協働的な学び、及び創造性教育の実践をどのように進めていくのか、課題や可能性などの展望を記述してください。